

持続可能な社会をつくる若手の「志」に学ぶ

第三回 “砂漠”を緑あふれるフィールドにする人 ~高橋 幸祐さんに聴く~

日時	2006年12月1日(金) 19:00~20:45
会場	環境省 中部環境パートナーシッププラザ
講師	高橋 幸祐さん(名古屋産業大学 緑の協力隊 1,2次隊隊長)
聞き手	間島 大仁さん(環境省 中部環境パートナーシッププラザ)
サポーター	相馬 浩幸さん(名古屋産業大学 緑の協力隊 5次隊隊長)
参加者数	13名

プログラム

19:00 - 19:05	あいさつ
19:05 - 19:10	自己紹介、砂漠についてのイメージ
19:10 - 19:15	砂漠クイズ 「どちらが砂漠の砂でしょう？」 「年間降水量(1平米あたり)は100ml、300ml、 500mlのどれか？」
19:15 - 19:40	プレゼンテーション 「名古屋産業大学 緑の協力隊について」
19:40 - 19:50	質疑応答
19:50 - 20:05	トークセッション 学内に関して 現地に関して 今後の展望
20:05 - 20:35	グループワークショップ「日本でできる砂漠防止案を考える」
20:35 - 20:45	まとめ
20:45 -	あいさつ



砂漠クイズ

最初に参加者にクイズを 2 問、

Q . 1 どちらが砂漠の砂でしょう？

Q . 2 年間降水量（1 平米あたり）は 100ml、300ml、500ml のどれか？

を行い、実際の現地の砂に触れて砂漠を体感したり、ペットボトルに入った水の量を見るなどして砂漠をイメージしました。

プレゼンテーション「名古屋産業大学 緑の協力隊について」

1 . 砂漠化の現状は？

- * 砂漠の種類には、土砂漠、砂砂漠、礫砂漠があり、砂漠化は気候変動や人間活動など様々な要因に起因して起こる土地の劣化等の要因が環境に及ぼしてできる現象である。
- * 砂漠化の原因は、自然的要因である干ばつや降水量の変動、過放牧、過耕作、乱伐などの人為的要因が考えられる。
- * 毎年約 6 万 km^2 （四国と九州を合わせた面積）が砂漠化している。このままだと約 1800 年後には緑がなくなってしまう。
- * 砂漠化の被害は、農産物などの生産力が低下し、貧困、餓死、病気の発生する「社会的な被害」と離村、移住と生物多様性の損失する「環境への被害」につながる。

2 . 緑の協力隊とは？

1991年、故・遠山正瑛鳥取大学名誉教授が沙漠緑化を目的に NGO 団体日本沙漠緑化実践協会を設立。協会の事として、緑の協力隊の派遣。中国クブチ沙漠での植林を 15 年間にわたって 140 回以上実施している。そして現在までに約 8000 人以上が参加、300 万本以上の植樹（植林面積約 20 km^2 ）をしている。

3 . 名古屋産業大学・緑の協力隊とは？

名古屋産業大学・緑の協力隊は、教職員と連携して隊を編成するサークル活動であり、学生が主体的に行動している。2001 年から 2003 年に合計 3 次隊まで派遣した。その後、学生、教職員の連携体制（緑の協力隊実行委員会）を確立し、来年 8 月には第 6 次隊の派遣を予定している。

実績は 1～5 次までの累計 2313 本を植林。活動場所は中国北部恩格貝のクブチ砂漠である。また、第 1・2 次隊感想文集を作り、活動紹介・成果を学生および学外にて広報している。

4 . 植林している木の種類は？

北京ポプラの木を植林している。灌木種子の散布、飛砂を止める「草方格」、剪定作業などを行っている。

トークセッション

講義で出会った 砂漠

大学での砂漠化についての特別講義があったのが最初のきっかけであった。環境に対しての問題意識と植林がビビっと結びついた。その講義の終わりに学生の有志が集まった。

活動していく中で感じたこと

想いがカタチになり、動きになってきたことから砂漠緑化について色々な人が興味を示してくれ、参加していく人が増えていったことにとっても感動した。熱烈的な植林に関心をもっている人がいたというのが一番印象的であった。

現地に出かけて

砂漠の地に立ち感じ、得たことは、最初は植林の意識というよりは砂漠（自然）に圧倒された。「砂漠ロマン！」...言葉に表せないくらい、率直に砂漠を歩くことが楽しい！

現地の人との関わり

現地の人との食事や家に招かれると、現地の人々の生活観や想いを感じることができる。現地の人々に想いをはせ、植林を行っている。そうした活動の中で現地の方々の生活が改善されていけばいい。

今後の展望...

植林活動に対しての広報支援することや、点である他の植林活動などを結び線にしていき、さらにそれを面にしていきたい。活動の拡大や植林について知ってもらう人を増やしていきたい。

グループワークショップ「日本でできる砂漠防止案を考える」

「日本にいても、砂漠化を防止できるアクションがあるのではないか」をテーマに参加者と意見交換をした。

- ・保育園・幼稚園・小・中・高でトトロクラブを作り苗木の育成をする。
- ・砂漠を救う人たちのリーダー育成をどんどん社会に出していく。
- ・タレントや人気のある人のポスターを間伐材で作し、販売し、その利益を基金にする。
- ・信用できる NPO/NGO を支援（寄付行為）する。
- ・グリーン biz、グリーン 3R、エコツーリズム。
- ・植林をする楽しさなどを伝えていき、砂漠化を起こさせないこと。
- ・地球全体を守っていきこうといった一人一人の自覚が必要である。
- ・値段ではなくて、商品の足跡情報を踏まえて買う。

まとめ

高橋 幸佑氏の格言：「木がつくる道」

個人の成長の道も含めて木を植えて道ができ街ができるという1本の木から展開されるさま、みんなが各々で取り組んでいる植林活動がつながっていくこと、を表現した。このキャッチをモットーにして、今後も活動をしていきたい。

所見

参加者のみなさんから、

- ・何年活動していても、地図で見ると針の穴にもならないくらいの活動を続けているのは率直にすごいと感じました。でもなんか楽しそうだったので自分もやってみたいと思った！
- ・「自分がやりたいからやる」というのはステキだと思った！
- ・広大な砂漠にロマンを感じられて羨ましいです。20代でこうした大きなテーマに出会えるということは大変素晴らしい！

などの想いを受け取りました。私たちも高橋さんの志に続き、木を守る人を育て持続的な道を共につくっていきましょう！次はあなたが道をつくる番です！